きらめき

立山町立釜ヶ渕小学校
５年　学年だより
Ｒ３．７月号

子供たちから感じる、日々の経験の大切さ

５年生の子供たちと過ごし、３か月。この３か月で感じた５年生の子供たちの素敵なところは、**自分の経験を生き生きと語るところ**です。特に、家庭や家族との経験が話題になると、「自分もそういうことがあって～」「私の家では～」と、普段はあまり手を挙げない子供も進んで発言します。家の中に虫が現れたときのことや、兄弟で喧嘩になったときのこと等、些細な出来事の中に、共感し合える部分がたくさんあるようです。

中でもＳさんは、日々の経験からいろいろなことをよく考えています。

①　保健「心の発達」の学習の中で

「心の発達」の学習の中で、赤ちゃんの頃は自分のことだけで、周りのことは考えられないのではないかという話になったときのことです。Ｓさんはすぐさま手を挙げ、「赤ちゃんでも周りのことは考えられると思う」と発言しました。その理由としてＳさんは妹が自分にお茶を持ってきてくれたときのことを話しました。Ｓさんはそのときの経験を通して、幼い妹にも、相手を思う心があるということを感じていたのだと思いました。

②　ある日のくらしのたしかめの時間に

朝のくらしのたしかめの時間、「サツマイモの水やり（世話）はもうしなくてよい」という話題になったときのことです。この話題を受け、Ｓさんは急に過去のことを話し始めました。

Ｓさん：	２年生か３年生のとき、カブトムシ飼っとってね、父ちゃんに「えさやらんでいいよ」って言われて、やらんかったら、死なせてしまったことある。 だから、（水やりしなくていいと言われたけど）やった方がいいと思う。
他の子供たち：	けどさ、６年生がやらんでいいって言ったから、もうやらんでいいんじゃないが？ それに水をやって逆におかしいことになったら嫌だ。
Ｓさん：	でも、たまにはやった方がいいと思う。やらんでいいって言われても、（それを鵜呑みにして）ずっとやらなかったら枯れるかもしれんから、たまには水やりをした方がいいと思う。

「たまには水をやった方がいい」と考えるＳさん。自分の過去の経験と今をつなげ、よりよい行動を考えようとしている姿勢に感心しました。これまでの経験を大事にして生きているのだと思いました。

また、Ｓさんは日々の経験からよく考えているだけでなく、経験を積み重ねることで成長を見せています。委員会の仕事でランチタイム（給食の放送）に司会進行を行うＳさんは、４月ごろはいつも自信なさげな様子でした。しかし、最近では、カメラに向かって堂々とした様子で司会をすることが増えてきています。

今後も、それぞれの経験を聴き合い、考える時間を大切にしていきたいと思います。

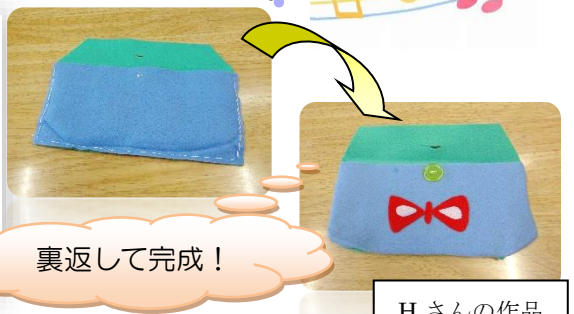
「本物」の価値を実感

６月２４日（木）、オリンピックの聖火リレーで実際に使用されているトーチを間近に感じることができました。

初めに、実際に聖火ランナーとしてトーチキスに参加された校区に住む坂下さんの話を聞きました。子供たちは、身近に住んでいる方が聖火ランナーとして活躍されている事実にとても驚いていました。そして、聖火が専用の飛行機で運ばれてきていることやトーチの詳しい説明を聞きながら、「すごい」「そうなんだ」と驚く気持ちを何度も言葉にしていました。

その後、１年生教室から校内トーチリレーがスタート。画面越しに他の学年がトーチを手渡していく様子を見ながら興奮が高まる中、５年教室にトーチが到着！実際に本物のトーチを目の前にすると子供たちは少し緊張感に包まれたようで、友達がトーチを手に取る姿をじっと見つめていました。トーチを手に取ると、多くの子供が聖火を灯す部分をじっくり覗き込んでいました。坂下さんの話の中で「雨や雪が降っても火が消えにくい仕組みになっている」と聞いたこともあり、どのような作りになっているのか気になっていたようでした。トーチの輝きに感動している子供もいました。トーチリレーの後には、本物のトーチに触れた証をどこかに残そうと、トーチに触れた手で自分のものを全力でさわる愉快な子供たちの姿が見られました。このように、本物の存在は、子供たちの心を大きく動かすのだと感じました。学習の中でも本物にふれる機会を大切にしていきたいと思います。

裁縫で小物作りに初挑戦！



H さんの作品

家庭科の学習では、生活の中で自分の役に立つと思う小物を作ることに挑戦しました。裁縫の学習を始めた頃は、多くの子供が玉結びや玉止めに苦戦していましたが、何度も練習を重ね、今では、多くの子が一人で作業を進めることができています。練習過程で、波縫い、本返し縫い、半返し縫い、かがり縫いといろいろな縫い方を覚えた子供たち。小物作り本番では、自分の作るもののイメージに合うよう縫い方を選び、半返し縫いや本返し縫いといった難しい縫い方にも進んでチャレンジしていました。

小物入れを作っていた H さんは、よりきれいな見た目に仕上げようと、小物入れの周りの部分を縫った後、中と外を裏返し、縫い目が中に隠れるよう工夫していました。自分で考え工夫する姿に感心しました。